

「近くに同じ名前のあるデ」なんていう理由で、しまわり、マサウ、湿の家、サルボウダヤ、ルンマラント、ポレポレ、たんぽぽ、夢見亭が脱落。残ったもので才1回の投票が行われました。

「1ア1ア」が13票でトップ。2位は9票の「かざぐるま」。「結」は10票。あと「フリーハウス」「ホロン」と続きます。ここで1位6つについてカンカンガクガクのはじまりです。

「1ア1ア」は、芝マー君の最近のログセともタイミングが合って断然トップだったのが、「ほんまに夕ヒテ語でそういうんか」といわれると、誰も自信がない。「図書館で夕ヒテ語の単語調べてくれた人いるけど、ほっそりせんみたいやぞ」と顔色が悪くなる。

いろいろすったもんだのあげくの逆転で、「かざぐるま」と「ここ」が残りしました。おもしろいことに、この二つとも、その夜、はじめて出てきたもので、しかも当日の映画会「しがらみから吹いてくる風」にちなんだネーミングでした。小室等歌うところのこの映画の主題歌が「ここから風が」というのです。芝さんのお父ちゃんが「ここ」っていうのいいな、いいといて」といって、山口さんのお父ちゃんも、「嫁さんが風車がいいっていい」と強い推薦でした。

ここから、この二つをめぐって、じつくりと、それぞれのイメージ、ええとこ、わるいとこを出し合います。

「かざぐるま」って、自分からまわらへん、外からの風をうけてまわるやろ。たくさんの人たちの思いが風になってかざぐるまがまわるんや、ええイメージやろ。なるほど！ そやけど水戸黄門の「風車の矢七」っていうのもあるがらな、それに、「かざぐるま」って、昔子守りの子がもってたりして、ちよっとさみしい気せえへんぞ。そういうたらそやな、いや、そんなことないで、「かざぐるま」って「ふうしゃ」ともよめるやろ、原爆にかわって電気も起させる、未来の自然エネルギーっていうたらおおげさやけど、力強いイメージもありぞ... などなど。

一方、「ここ」って音のひびきがいいし、簡単で可愛い。いいやすいけど、電話がかかってきて、「はい、ここです」ってややこしくならへんか、イメージとしてはどうなんやろ？ ここという人は、この生活の場だけの「ここ」やなしに、みんな一人一人に、それぞれの「ここ」があるんや、そんなふうに思うのがええな。そういうたらこんな話があったな。「ユートピア」って言葉あるやろ、あれ、「ユ」はギリシャ語で否定をあらわすユトバで、「トピア」は「場所」。そやから「ユートピア」って「NO WHERE」、つまり「どこにもない場所」っていうことになるそうなんやけど、この「NO WHERE」、よくみえると、「NOW HERE」にふめて、「ユートピア」はくいま、ここ>やってことになる。